

令和 6 年 度
一関修紅高等学校一般入学試験問題

第 1 時 限

(1月18日 8：50～9：40)

国 語

(注 意)

- 1 「始めなさい。」の指示があるまで、問題を見てはいけません。
- 2 答えは、必ず解答用紙の「答」の欄に記入しなさい。問題用紙に書いても無効です。
- 3 答えは、記号・文字・言葉・文などで書くようになっていますから、問題をよく読んで、定められたとおりに書きなさい。
- 4 書き誤りをしたときは、きれいに消してから新しい答えを書きなさい。はっきりしない答えを書いた場合は、誤りとされます。
- 5 解答用紙の※印の欄（得点の欄）には記入してはいけません。
- 6 時間内に書き終わっても、その場に着席していなさい。
- 7 「やめなさい。」の指示があつたら、直ちに書くのをやめ、筆記具を置きなさい。
- 8 問題用紙は、表紙を含め^{ふく}ないで13ページで、問題は6題です。

次の文章は、無断で家を飛び出し東京へ行った「賢治」が、自らが信仰する日蓮宗の団体での手伝いを終えてから宿へ帰るときの出来事です。この文章を読んで、あとの(1)～(5)の問いに答えなさい。

(20点)

「先生、おら……おら、なやみごとが」

「何だね」

「おらは、もう、何が何だかわからなくなりましたじゃ。日々の生活に追われ、心の修養は完成せず、郷里の父を改宗させることもできません。どうしたらいいのすか」

賢治としては、^①清水の舞台から飛びおりるつもりで告白したのだ。この大都会には、ほかに相談できる人はない。

「それはね宮沢君」

^(注1)高知尾はほっそりとした指を立て、丸めがねを持ちあげて、

「何度も言うとおりに、われわれは在家の^(注2)帰依者^{きえしや}なのだよ。ソロバンを取る者はソロバンの上に、鋤^{すくわ}鋤を取る者は鋤^{すくわ}の上に、信仰をあらわさねばならぬ」

大した教えではない。おそらく宗教者ならば浄土真宗の僧侶でも、キリスト教の宣教師でもおなじことを言うだろうが、賢治はそれでも、

(返事を、もらった)

それだけで心がはずんだ。

「ありがとうございます」

一礼して、逃げるように走りだした。下宿に帰ろうと思ったのである。

お金がないから、電車には乗れない。上野公園をつきつて湯島へ出て、^(注3)なじみの本郷通りへ出る。これを右へまがれば近道なのだが、勤め先がおなじ道^(注4)ぞいにあるのが^(注5)気づき^{きづ}きで、

(ガリ切りの上に、信仰があるのか)

道をわたり、まだ入ったことのない路地へ入った。

風景そのものは変わらない。くんだり坂があり、小さな家の密集があり、電信柱と架線があり、縁側に七輪を出して魚を焼くおばさんの姿がある。

文房具屋もある。このへんで文房具屋を見つけるのは、冬の夜空に一等星を見つけるくらい容易なことなのだ。

^②その店先は、しかし、よそとは少しちがっていた。

万引き防止のためだろう、道からやや引っ込んだところに品棚を置くのは他店とおなじかまえだが、その棚の上には、セピア色のマス目の、全体が子持ち野でかこまれた、左下のすみに小さく、

B形1020イーグル印原稿用紙

と印刷された四百字づめの原稿用紙が山をなしていたのである。

これは意外ながめだった。東京帝国大学では独自の用箋^{ようせん}がもちいられるのだろう、学生は通常、こうした市販のものには手を出さないのだ。賢治は、

して日本一と思われなかった。賢治は満足しなかった。紙の上に定着し得たイメージより、し得ぬまま霧消したイメージのほうが圧倒的に大きかったのだ。いまの自分は休火山である。ひといき入れて万年筆をとり、ふたたび走り書きをはじめれば、ふたたび噴火がはじまるにちがひなかった。

「なしてが」

口に、出してみた。

(なして、書けたか)

人間あんまり空腹になると頭がかえって冴^さえるものだとか、ふだん鉄筆でがりがり与他人の文章をうつしてばかりだったぶん創作の欲求が鬱^{うつせき}積^{せき}していたのだらうとか、その程度では何の説明にもならない。もっとふかい理由がある。そう思いつつ、しかしそのふかい理由が何なのかは、賢治には、自分のことにもかかわらず想像のいとぐちすらも見つけることができなかった。

(門井慶喜「銀河鉄道の父」による)

(注1) 高知尾……日蓮宗の団体の講師。

(注2) 帰依者……神仏や高僧を深く信仰し、その教えに従い、力にすがる者。

(注3) 氣ぶっせい……氣づまりなさま。窮屈なさま。

(注4) ガリ切り……やすりの上に置いた原紙に鉄筆で文字などを書くこと。

(注5) 胸腔……胸部の内部の肺臓、心臓がある部分。

(注6) 菊坂……現在の東京都文京区にある地名。

(注7) 盛岡高農……盛岡高等農林学校(現在の岩手大学農学部)。

(注8) 惑溺……惑いおぼれること。

(1) 本文中の A、

B、

C

には、それぞれどのような言葉が入りますか。その組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

ア	A	のったり	B	どさり	C	ざらり
イ	A	そそくさ	B	ぱらぱら	C	がさがさ
ウ	A	ゆっくり	B	ごそり	C	つるり
エ	A	いそいそ	B	ひらり	C	さらさら

(2) 傍線部① 清水の舞台から飛びおりる とは、どのような意味ですか。次のア～エのうちから

最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。

(3点)

ア 一つのこと心に心を集中して、他に注意を奪われないでいること。
イ 失敗してもともとというつもりで、思い切つて事を行うこと。
ウ 思いがけないことに会って、あわてうろたえること。
エ どんなことにも慌てず、落ち着き払っていること。

- (3) 傍線部② その店先は、しかし、よそとは少しちがっていた。とありますが、どのように違っていたのですか。それを次のように説明するとき、にあてはまる言葉を、本文中から十六字でそのまま抜き出して書きなさい。

(3点)

店先に

置いてあった。

- (4) 傍線部③ 噴火の圧力はおとろえず、溶岩は尽きることを知らなかった。について、次のa、bの問いに答えなさい。

- a この表現の中で使われている表現技法は何ですか。次のア～エのうちから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。

(3点)

ア 反語法 イ 直喩法 ウ 対句法 エ 隱喩法

- b この表現は、賢治のどのような様子を描いたものですか。それを次のように説明するとき、にあてはまる言葉を、賢治の気持ちにもふれながら、三十文字以内で書きなさい。(4点)

賢治の頭の中に

様子。

- (5) この文章で「賢治」はどのような青年として描かれていますか。次のア～エのうちから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。

(4点)

ア 童話という作品の創作は取るに足りないものと思っているため、自然にあふれ出る「書きたい」という思いに自己嫌悪を抱いている青年。

イ 自身の信仰の深さを作家として文学作品に表現しなければという使命感から、苦悩しながらも童話づくりに没頭しようとする青年。

ウ 日々の生活に追われるような貧しい暮らしを送っているにも関わらず、衝動的に原稿用紙を大量に購入し、自己満足のために童話づくりに励む青年。

エ なぜこれほどまでに自分が文学作品作りにのめりこんでいるかも分からない不思議な感覚の中で、ひたすら創作に打ち込んでいる青年。

私は、話し言葉と書き言葉の関係はピンポンと卓球の関係に似ていると考えている。温泉場には、よく卓球台がある。そこで風呂あがりやるピンポンは、およそ誰でもできるものだ。「卓球」という言葉でイメージされるのは、もう少しレベルの高いものだ。ポーンポーンというリズムではなくて、カンカンカンカンといった速いテンポで気持ちよくラリーが続く、そんなイメージが卓球だ。

比喻として言えば、A がピンポンにあたり、B が卓球にあたる。話すことは何となくできるようなものなる。しかし、文章を読んだり書いたりすることは、練習しないとなかなかできるようなにはならない。ピンポンなら誰でもがある程度できるが、卓球となると、基本を教わるかどうかで大きく差が出てくる。話し言葉ならば、小学校高学年になれば、ある程度のレベルに達する。そのままそれほどの変化なく高校生になる例もある。読書をたくさんするということは、卓球部に入ると事情が似ている。それを経験すると、書き言葉が身につくのである。自分が文章を書くときはもちろん、話すときにも書き言葉が生かされるようになる。

卓球やテニスでは、フォアハンドはある程度の運動神経があれば何となく打てるが、バックハンドとなると、きちんと習わないとすっかりとした球は打てない。C は、フォアハンドのようなものだ。知力に応じて、各人何となくできるようになる。

しかし、D はバックハンドのようなもので、意識的な練習（ここで言えば読書など）を経なければ、試合で使える技にはならない。

オングは『声の文化と文字の文化』の中で、人類の言葉の歴史から見ても、話すことと書くことには決定的な違いがあり、「自然な口頭での話しとは対照的に、書くことは、完全に人工的である」と言っている。話すことは障害がない限り、自然に話し方をどんな人間も覚える。これに対して、書くことは技術である。それは単なる技術ではなく、意識を内的に変化させるものだ。話すことが自然な行為だとすれば、書くことは自然さから離れることでもあるとオングは言う。

「書くことは、意識を高める。自然な環境からの離脱〔疎外〕は、われわれにとつてよいことでもあり、実際、多くの点で、人間生活を充実させるためには不可欠でさえある。十分に生き、十分に理解するためには、近づくことだけではなく、離れることも必要である。これ〔離れること〕こそ、書くことが、他のどんなものにもまして、意識にあたえるものなのである。」(桜井・林・糟谷訳)

書き言葉を読書を通じて身につけていくことによって、^②状況に巻き込まれにくい冷静でタフな知性が育てられる。読書の修練を積んだ人には、どこか冷静な知性の香りが漂う。もちろん気質の問題は大きいですが、それでもなお冷静に自分の主観とは独立して物事を論じる客観的な構えが読書をするほど身につくやすい。

話すことと書くことを対立して考えるのは、生産的ではない。元来、上手に書くことができる人は、ある程度話にもまとまりがある。書き言葉ができていない人の場合は、話もまた冗長になりがちだ。一対一でプライベートで話しているときには、話し言葉の力量差は表れにくい。書き言葉をたとえ修練していなくても、話は滞りなくできる。

しかし、いったんフォーマルな場に出てみると、話すという行為が実は書き言葉によって精度が高められているのだということがわかる。大勢を前にして、二、三分でかいつまんで意味のある話をする技術は、高度なものだ。書き言葉をまったく修練していないと、普通はなかなか「意味の含有率」の高い話はできにくいものだ。

これからの時代は日本でも、このプレゼンテーションの技術がいつそう重要になる。そのときに大勢に向かって堂々とからだを開いて強い息で話す演劇的な感性や身体性も重要だが、それと同時に、論理を踏まえたキレのよい話し方が求められる。この話し方を鍛えるメニューが読書なのである。

自然な環境からいったん離れること。これが、書き言葉が意識に与える効果であるなら、読書は自分を客観的に捉える視点の獲得につながっている。

自分自身や物事を客観的に捉えるという眼は、生まれつきのものではなく、練習して身につけられる技である。コミュニケーションは、近づくことと離れることの両方ができることによって、円滑に行われる。距離を的確に保つには、離れる技も必要だ。書き言葉が修練されていれば、状況から少し身を引き離して考えることができやすい。

この「離れる」という客観的な構えの形式は、読書の重要な効果の一つだ。

(齋藤孝「読書力」による)

(注) オング……ウォルター・J・オング。アメリカの哲学者、文化史家。

(1) 本文中の **A** **D** には、それぞれ「話し言葉」か「書き言葉」のどちらの言葉が入りますか。次の **A** **エ** のうちから最も適当な組み合わせを一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

A	話し言葉	B	書き言葉	C	書き言葉	D	話し言葉
イ	話し言葉	B	書き言葉	C	話し言葉	D	書き言葉
ウ	書き言葉	B	話し言葉	C	話し言葉	D	書き言葉
エ	書き言葉	B	話し言葉	C	書き言葉	D	話し言葉

(2) 傍線部① 書くことは、完全に人工的である とありますが、これはどういうことですか。それを次のように言い換えて説明するとき、**a**、**b** にあてはまる言葉を、**a** は十一字で、**b** は十六字で、それぞれ本文中からそのまま抜き出して書きなさい。(3点×2)

書くことは

a

技術であり、また

b

でもあるということ。

- (3) 傍線部② 状況に巻き込まれにくい冷静でタフな知性 とはどういうことですか。それを、次のように説明するとき、にあてはまる言葉を、あとの文章（成毛眞氏と筆者斎藤孝氏との対談の一部）に述べられている具体例を参考にして、**二十字以内**で書きなさい。（3点）

ができること。

成毛 「反知性主義」が世界的に幅を利かせるようになっている昨今、改めて知性について考える上でタイムリーな出版ですね。斎藤先生の考える知性とは何でしょうか。

斎藤 冷静な判断力があることだと考えています。知識があっても、例えば、デマを信じ込んでちゃんとした判断ができないというのは知性に欠けているということになります。情報があふれる現在、自分でどれを選択して、何を判断するのかということが常に問われています。これほど知性が求められている時代はないのではないのでしょうか。

- (4) 傍線部③ プレゼンテーションの技術 とありますが、ここで述べられているプレゼンテーションの技術とはどのようなものですか。次のア～エのうちから**最も適当なもの**を**一つ選び**、その記号を書きなさい。（3点）

- ア 演劇的感性豊かな表情とジェスチャーで相手を説得する話し方。
- イ 精度の高い論理を踏まえただけにこだわったキレのよい話し方。
- ウ 特にスライドなどの視覚情報を重視して相手を説得する話し方。
- エ 相手に対して簡潔に意味のある内容を論理的に説明する話し方。

- (5) 次のア～エのうち、本文の内容について説明しているものとして、**最も適当なもの**はどれですか。**一つ選び**、その記号を書きなさい。（4点）

- ア 読書は、コミュニケーションを円滑に進めるために一番重要な要素である離れる技を確実に身につけさせる。
- イ 読書は書き言葉を身につけさせて、自分の主観とは独立して物事を論じる客観的な構えを獲得させてくれる。
- ウ これからの時代は日本でも、論理的な思考で他人を説得できるプレゼンテーションの技術が大変重要になる。
- エ コミュニケーションは、「離れる」という客観的な構えの形式を促して話すことを円滑なものにしてくれる。

一秒の言葉

小泉吉宏

「はじめまして」

この一秒ほどの短い言葉に、一生のときめきを感じることがある。

「A」

この一秒ほどの短い言葉に、人のやさしさを知ることがある。

「がんばって」

この一秒ほどの短い言葉に、勇気がよみがえってくることがある。

「B」

この一秒ほどの短い言葉に、幸せにあふれることがある。

「ごめんなさい」

この一秒ほどの短い言葉に、人の弱さを見ることがある。

「さようなら」

この一秒ほどの短い言葉が、一生の「C」になるときがある。

一秒に喜び、一秒に泣く。

一生懸命一秒。

人は生きる。

- (1) 詩の中の「A」、「B」、「C」には、それぞれどのような言葉が入りますか。その組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その記号を書きなさい。

(3点)

ア	A	ありがとう	B	おめでとう	C	別れ
イ	A	どうかした	B	失礼します	C	輝き
ウ	A	もういいよ	B	すみません	C	限界
エ	A	おつかれさま	B	だいじょうぶ	C	驚き

- (2) 次の会話文は、この詩を読んだ二人の生徒が感想を述べあったものです。これを読んで、あとのa、bの問いに答えなさい。

【会話文】

生徒A この詩は、一秒くらいの短い言葉でも相手にどんな影響を与えるのかがよくわかる内容だよ。

生徒B 一秒って言ったら、まばたきほどのほんのわずかな時間だよ。一秒だけだと、何もできないと思っていただけ、言葉だと瞬時に自分の気持ちを伝えられるよね。

生徒A この前、理科の授業で、光は一秒の間に地球を七周半、約三十万キロメートルもの距離を移動すると教わったよ。

生徒B そうそう、国語の授業では、ハチドリは花の蜜を吸うために一秒間で六十から八十回も羽ばたいて、空中に静止していると書いてある説明文を読んだのを覚えている。

生徒A 「ありがとう」や「おめでとう」と声を掛けられると、とても温かい気持ちになれるね。

生徒B まるで言葉のマジックだ。

生徒A 「がんばって」と言われると本当に元氣とやる気がでてくるよ。

生徒B その反対に言葉はナイフのように人の心を傷つける場合もある。

生徒A うん。ふだんあまり意識しないで言っている言葉も相手を幸せにしたり、不幸にしたりしているかもしれないなあ。

生徒B 話す時にはそのことも気をつけないと。

生徒A 言葉の持つ はけっこう大きいんだね。

- a 傍線部 人の心を傷つける について、あなた自身の経験を振り返り、どのような「一秒ほどの短い言葉」をかけられたかを**五字以内**で挙げ、そのときにどのような気持ちになったかを**二十五字以内**で書きなさい。

(5点)

- b 会話文の中の にあてはまる言葉を漢字一字で書きなさい。

(3点)

次の古文を読んで、あとの(1)～(5)の問いに答えなさい。設問の都合で、漢文の送り仮名と返り点を省略したところがあります。(16点)

同じ院、雪いとおもしろく降りたりける冬の朝、^(注1)端近く居出でさせ給ひて、雪御覧じけるに、^(部屋の端近くにお出ましになつて)

「香炉峰のありさま、いかならむ」と仰せられければ、清少納言、御前に候ひけるが、申すこと^(注2)
(香炉峰の雪の様子は、どんなかね)

はなくて、御簾をおしはりたりける。世の末まで優なる例にいひつたへられける。^(注3)
(外に押し出したということだ。)(そのことは末の世まで)

かの香炉峰のことは、白楽天、老ののち、この山のふもとに、一つの草堂をしめて、住み給ひ^(注4)
(建て)

ける時の詩にいはく、

遺愛寺、鐘、欹枕聴^(注5)
(遺愛寺の鐘は枕を欹てて聴く)

香炉峰、雪、撥簾看^(注6)
(香炉峰の雪は簾を撥げて看る)

とあるを、帝、仰せ出されけるによりて、御簾をば上げけるなり。
(お言葉があつたので)

かの清少納言は天曆の御時、梨壺の五人の歌仙のうち、清原元輔女にて、やまとことばも、^(注7)
(村上天皇の天曆の御代) (名歌人のうちの一人) (娘) (和歌も)

家の風吹き伝へたりけるうへ、心ざまわりなく優にて、をりにつけたる振舞、いみじきこと多かりけり。
(よく受け継ぎ)

(「十訓抄」による)

(注1) 院……第六十六代天皇で一条院(一条天皇)。

(注2) 香炉峰……中国江西省にある山。景色のよさが知られている。

(注3) 御簾……すだれで、目隠しや日よけに用いた。

(注4) 白楽天……白居易のことで中国の詩人。白楽天の草堂は遺愛寺と香炉峰の間にあった。

(注5) 梨壺の五人……村上天皇の勅命により、梨壺という部屋で『後撰集』という和歌集の編纂にあたつた五人。

(1) 傍線部① おもしろく とありますが、ここではどのような意味ですか。次のア～エのうちから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

ア 高く イ 真白く ウ 冷たく エ 美しく

- (2) 傍線部② 仰せられければ の主語として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

ア 院 イ 清少納言 ウ 白楽天 エ 清原元輔

- (3) 傍線部③ いひつたへられける の読み方を現代の仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。(3点)

- (4) 傍線部④ 香炉峰雪撥簾看 とありますが、本文中の書き下し文(香炉峰の雪は簾を撥げて看る)を参考にして返り点を付けなさい。(3点)

- (5) 本文で描かれている内容として最も適当なものはどれですか。次のア～エのうちから一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

ア 白楽天の詠んだ歌を思い出して、院の質問に対して和歌で回答しながら下りていた御簾を上げた清少納言の漢詩に優れた才能。

イ 質問に回答できない清少納言に代わって、下りていた御簾を上げること白楽天の漢詩を踏まえて見せた院の機転の利く行動。

ウ 白楽天の詠んだ歌を踏まえて、部屋から見える山を香炉峰に見立てようと下りていた御簾を上げた清少納言のみやびな心遣い。

エ 未熟な清少納言に対して、御簾を上げて部屋から見える香炉峰の山に積もる雪を見せて喜ばせようと思った院の細やかな配慮。